

研究委託地域	研究テーマ
鎌倉市	主体的・対話的で深い学びのある授業づくり ～深く考え、判断し、自ら進んで学習する児童・生徒の育成を目指して～
藤沢市	児童・生徒の「学びに向かう力」の醸成
茅ヶ崎市	未来を拓く力をはぐくむ学校教育の充実 ～学びの質を高める学校教育の充実～
三浦市	郷土三浦に誇りを持ち、これからの社会をたくましく生き抜く人材の育成
葉山町	9年間を見通した探究的な学びの推進 ～生活科・総合的な学習の時間を中心に～
寒川町	確かな学力を身につける教育の推進 ～豊かな心と確かな力 瞳輝く寒川の子～
綾瀬市	9年間を見通した豊かな学びを目指して ～授業スタイル（振り返り）と家庭学習の充実の共通化を通して～
愛川町	自立・協働 ～たくましく生きぬく力を持つ子～
清川村	幼・小・中の12年間を見通した確かな学力と豊かな心の育成 ～輝き・愛着・誇りを持って未来を支える「清川っ子」の育成を目指して～
秦野市	児童・生徒の「学びに向かう力」の醸成
大磯町	児童・生徒一人ひとりに応じた指導・支援の充実
二宮町	9年間を見通した共通性と一貫性のある指導・支援を通じた、「学びに向かう力」の醸成と資質・能力を育む指導のあり方（3年次）
南足柄市	夢と希望を持って、粘り強く自分の道を切り開く子どもの育成 ～「確かな学力」の向上をめざした指導の工夫・改善～
大井町	「児童・生徒を中心に考える授業づくり」 ～“学び”の質を高める授業改善～
松田町	「質の高い学びの創造」 ～自立・創造・共生の視点から～
山北町	社会の中で他者とよりよく関わりながら自分らしく生きることができると人間力と社会力の育成
真鶴町	伝え合い・学び合いを通して育む確かな学びと豊かな心

各地域・推進校の研究の概要を、令和5年度かながわ学びづくりシンポジウムで紹介しました。神奈川県ホームページにも掲載しています。[かながわ 学びづくり推進地域](#)で検索。

令和6年度は、15 市町村(藤沢市、茅ヶ崎市、三浦市、葉山町、寒川町、綾瀬市、愛川町、清川村、秦野市、二宮町、南足柄市、大井町、松田町、山北町、真鶴町)を、かながわ学びづくり推進地域研究委託事業の研究委託推進地域としています。

また、令和6年度かながわ学びづくりシンポジウムは、令和7年2月に開催する予定です。



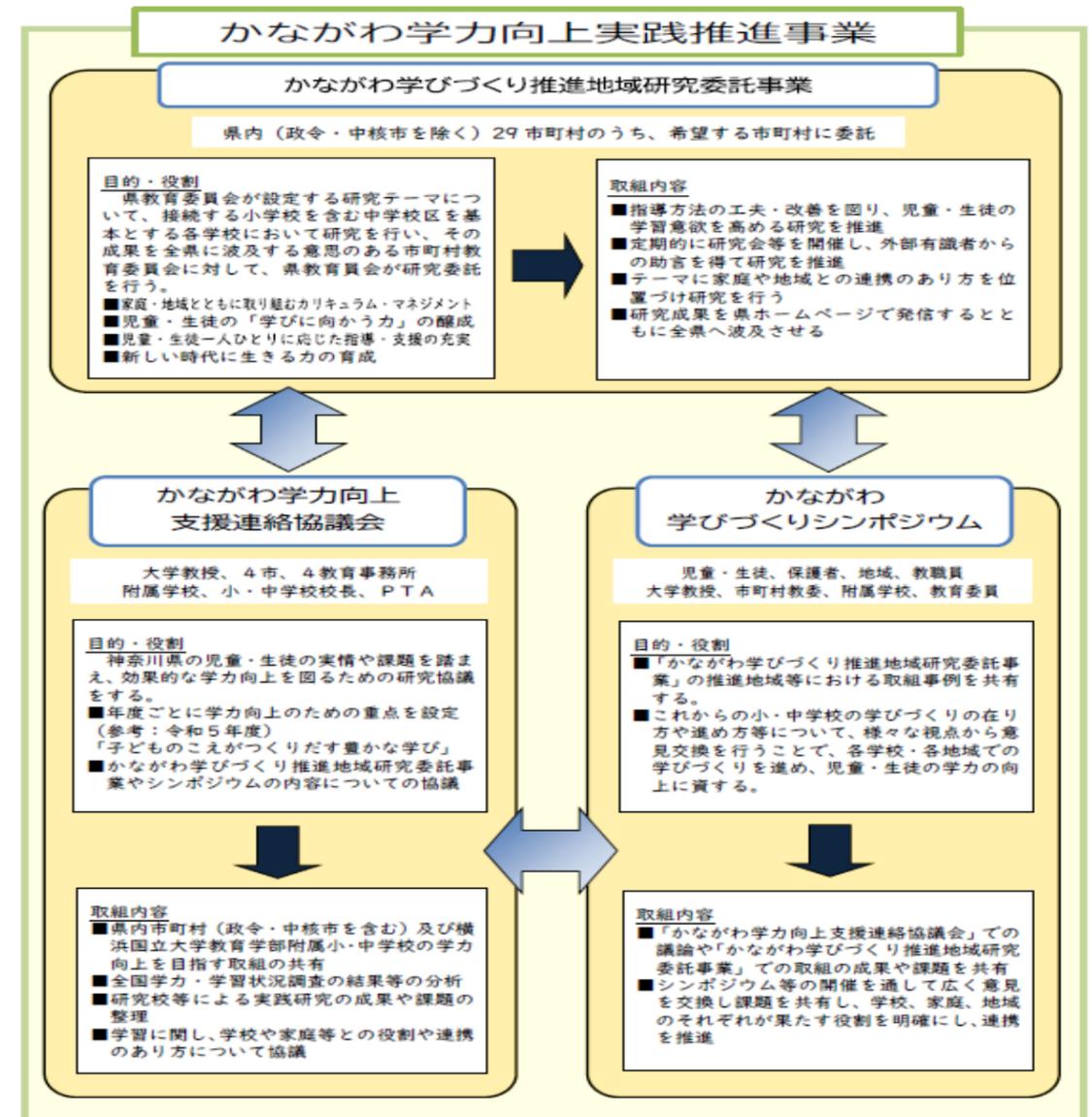
問合せ先:神奈川県教育委員会 子ども教育支援課 教育指導グループ  
電話:045-210-8217(直通)

※ 本紙は、令和6年度の各学校・家庭・地域での「かながわの学び」の充実につなげていただくよう、令和5年度の「かながわ学びづくり実践推進事業」を紹介するものです。各ホームページも併せてご覧ください。

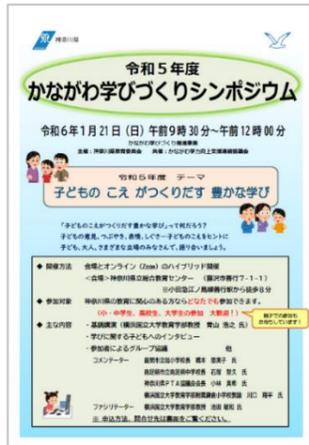


# かながわの 学びづくり プラン

神奈川県教育委員会では、「かながわ学力向上実践推進事業」を平成20年度から実施しています。この事業は、平成19年4月に始まった全国学力・学習状況調査の調査結果等の分析をとおり、今後の指導の改善につなげることを目的とした有識者を中心とする「神奈川県検証改善委員会」の報告をもとに始まりました。本事業では、下図のように、3つの取組（かながわ学力向上支援連絡協議会、かながわ学びづくり推進地域研究委託事業、かながわ学びづくりシンポジウム）を連動させて実践研究を進め、その成果を全県へ周知しています。



令和5年度かながわ学びづくりシンポジウム 令和6年1月21日(日)開催



県教育委員会では、学校教育、家庭教育、地域の教育力の向上に資するため、それぞれの役割や協働した環境づくり等について広く意見交換をするシンポジウムを毎年開催しています。

令和5年度は会場とオンラインのハイブリッド開催とし、「子どものこえが作りだす 豊かな学び」をテーマに、子ども・大人がそれぞれの立場で、「豊かな学び」や「かながわの学びづくり」について語り合いました。

★神奈川県ホームページも御覧ください★



( [かながわ 学力向上](#) で検索 )

「令和5年度かながわ学びづくりシンポジウム」の概要

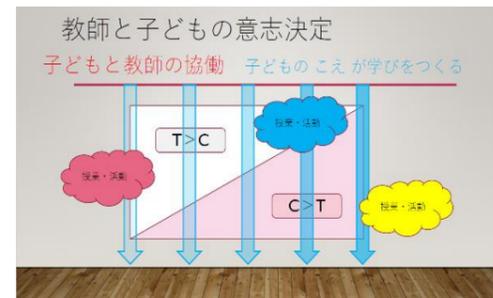
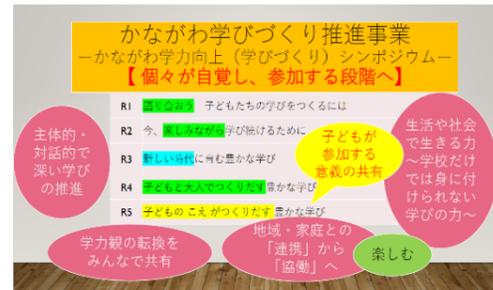
基調講演 「子どものこえが作りだす 豊かな学び」についてー「子どもと教師の協働」へー

横浜国立大学教育学部教授 青山 浩之 先生

○神奈川県の学びづくりは、まず子ども同士の学び合う力を育成する、そして、学びの質を向上させる、これが一番大事だということ。そのため、教員が指導方法の工夫、改善、研修研究に努める、というところから始まっている。

○私たち大人は思いを持って子どもたち、あるいは学ぶ方たちと、学びの空間を共有して活動しているが、実際それを受け取っている側とは少し乖離があるということが少なからずある。私たち大人がしっかりと取り組んでいるのだと思っても、受け手がどう受けているか、ということちゃんと見定めていかないといけない。その方法として、子どもたちの声を聞きながら、私たちはそれを生かして、その活動を作り上げていかなければいけないということになる。

○授業において、子どもの方が教員より意思決定が多くなる部分を作っていないといけない。授業は教師が作り出す空間だけれども、そこに子どもの声が必要存在する、子どもの思いが存在する、という考え方で、活動を見取っていく必要がある。子どもの意思決定のウェイトが大きければ大きいほど、子どもたちの学びの充足感、豊かさというものが作り出し出していけると思う。



参加者から（アンケートより抜粋）

- グループになって生徒と先生方の考えや思っていることをお互い話せるのがすごく楽しかった！たくさんの人の意見や他の学校の話聞いてよかったです。＜中学生＞
- 児童・生徒と教員が共に同じ高さで歩みを進めていくことが大切だとより実感しました。どうしたら安心感がある学級といえるのかを考え、ありのままの生徒を受け入れてくれることで、子ども達は安心でき、先生に頼ってみようと思えるのではないかと感じました。＜大学生＞
- 大人は結論や結果を急がず、経験した目線からのアドバイスやサポートをすることで、子どもたちの理解が深まると感じました。子どもに寄り添い耳を傾けることが子どもの学びに繋がると感じました。＜保護者＞

グループ協議「子どものこえが作りだす 豊かな学び

～聞いて聴いて、わたしたちのこえ～

ファシリテーター：横浜国立大学教育学部教授 池田 敏和 先生



小学生のこえ

勉強でわからないときに、手を挙げたりすると先生が来てくれるから、わからないときにちゃんと手を挙げています。わからないときに、ちゃんと教えてくれるから楽しいです。



小学生のこえ

何で私を当ててくれないんだろうって思うときがある。発言したいのになあ…。



高校生のこえ

生徒たちが変えたいって思っていることを先生側がダメって規制するんじゃなくて、その先生と生徒の間でコミュニケーションして、お互い譲り合ったりして、やりたいことをお互いウィンウィンな形で実現させていく。先生たちが聞いてくれているときに、私たち生徒はその先生を信頼できるし、その信頼関係のもとで色々なことをすると、もっと新しく、その生徒たちの意見が伝わる学校づくりができると思う。



コメンテーターから

神奈川県公立小学校長会副会長 橋本 恵美子 先生

発達支援サポーターの方のお話。「わからない」が言えなくて、静かに困っている子たちが、グループ学習になると周りのお友達に聞いて学習を進めていくことができること。先生でも友達でも、わからないその時に聞くことのできる授業が実現できると、わからない子も、わかって教える子も、授業の中で自分の出番があったという体験がたくさんできる。

神奈川県公立中学校長会副会長 石塚 智久 先生

主体的・対話的な学びをするには、その集団の中で自由に発言ができる、周囲から認められる。いわゆる否定や冷やかしのない、そういった集団でないと、学び合いや対話的な学習はできない、そういう集団であるということがまず一番大事といえる。

神奈川県PTA協議会会長 小林 真希 さん

オープニング動画で、未就学の子どもの「高いところが好き」と言っていた。私たち大人は高いところに上ると危ないから駄目、と言いがち。高いところが好きという子どもの気持ちをしっかりと受けとめて、安心して安全に遊ぶ方法や環境を整えていくのが大人である私たちの役割なのではないか。学びについても同様に考える。

横浜国立大学教育学部附属鎌倉小学校 川口 翔平 先生

協議グループに、1年間で一番楽しかったことを学校で聞かれて「漢字」と答えた子がいた。先生が作るオリジナルのプリントがあって、それをめくるのがワクワクすること。素敵だなあと思った。本来人間って新しいことを知るのが好き、楽しいことをしたいものだと思う。だから子どもがそれを継続していけるようにするのは、我々教員の仕事であり責任だと感じた。